

事業報告書

2025年度（令和7年度）

2025年（令和7年）4月 1日から

2026年（令和8年）3月31日まで

滋賀県近江八幡市市井町177番地

学校法人 ヴォーリズ学園

2025年度事業報告書

2025 年は「ヴォーリズ来日 120 年」記念事業が「バンザイなこっちゃ！協議会」の皆様のご尽力で 1 年を通して取り組まれ、地域に「ヴォーリズの風」が吹きました。さらには私学にも 45 万 7200 円を上限に「高校授業料無償化」の実施が決定しました。その結果、教職員の新たな実践の展開と相俟って、この数年の連続した生徒募集の後退から、まずは高校で「反転攻勢」に転じました。

しかし「少子化」は加速度的に進行していますから、「無償化」の先の「再編統合」も懸念されます。内外の情勢も激動期に入った感があり、新たな時代を見据えた本学園の「新たなカタチ」を大胆に創り上げたいと思います。以下、そういった観点から、2025 年度の事業計画に沿って、到達点と課題を整理します。

(1) 「いのちを大切にする教育」を具体化し、「ヴォーリズメソッド」として確立します。

ヴォーリズ来日 120 年記念事業を通して、本学園の教育・保育の軸は「ヴォーリズ・スピリット」であり、支持される所以でもあることを、あらためて確信しました。その具体化として「いのちを大切にする教育」の重要性を再確認し、そうした教育を標榜する立場から、生徒一人一人のいのち（＝人権）を大切にしているか、厳しく点検しなければなりません。

(2) 私学ならではの教育改革を進めます。

この数年の他校視察や内外の研修がやや少なくなっていたことが、本学園の「進取の気風」を停滞させていたとの反省から、まずは管理職（運営協議会）研修や各校での研修の充実を図りました。「地域になくてはならない私学」となるためには、さらにアンテナ高く広く学び、地域と連携し、「自主性」（→主体性）と公共性を共に高めたいと思います。

(3) 経営体質の強化・組織改革を進めます。

改正「私立学校法」に伴う新「寄附行為」に沿った新たな理事会・評議員会が構成されました。併せて学園全体の諸懸案の整理・協議をしてきた「学園改革会議」を発展的に解消し、予算主義・財政規律の確立など学園機能強化に特化した「学園執行部会議」をスタートしました。引き続き経営基盤強化のための意識改革や学園施設の活用見直しを進める必要があります。

(4) 「ヴォーリズみらい構想」の推進

① 市井校地再生→「ラーニングコモンズ構想」

恵愛館建て替え工事は、建築費の高騰もあり、難航しましたが、設計変更や解体工事の地元業者発注などにより、何とか解体工事が終わり、新築工事開始となりました。限られた予算で最大限の効果が得られるよう、周辺施設も活用し「共用」する市井校地再生プロジェクトだという意識で取り組みます。

② ハイド記念館・教育会館の保存活用→「ヴォーリズミュージアム」構想

ヴォランティアの方々の力も借りながら、各種イベントに取り組み、内外からの寄付もお願いしてきました。体制の構築、基礎工事の準備など、いよいよヴォーリズミュージアムに向けた準備の最終段階に入りました。

③ エデュケア事業

金田東保育園の認定こども園化（→ほしの恵みこども園）・園舎建て替え事業が完成し、6 園すべての施設更新が完了しました。引き続き 6 園に共通する学園保育（教育）づくり（メソッドづくり）に取り組みます。

④ 浅小井校地等の活用→「ヴォーリズみらいビレッジ」構想

用途変更の手続きの申請がなされ 2027 年度には本格的な活用が見えてきました。多くの業者・団体による活用も始まっています。懸案の管理運営体制の構築についての検討も詰めの段階に入りました。

⑤ その他

スクールバス事業や近江八幡市内の 3 校地をつなぐアクセスの改善、「ヴォーリズの森」整備等の諸課題については、安全対策に十分に留意しながら引き続き検討します。

理事長 藤澤俊樹

I. 学校法人の概要

本法人は「イエス・キリストを模範とし、教育基本法および学校教育法に従い、学校教育を行い、自己統制力のある自由人、独立自主の創造力に富む人、知性豊かな国際人を育成すること」を目的としております。

2025 年度における本法人の概要は、以下のとおりです。

1. 設置する学校等

近江兄弟社高等学校 全日制課程 普通科・国際コミュニケーション科
近江兄弟社中学校
近江兄弟社ひかり園
もりの風こども園
そらの鳥こども園
ほしの恵みこども園
安土ののはな保育園
ふるたか虹のはし保育園

2. 沿革

- | | |
|----------------|--|
| 1905 (明治 38) 年 | ウィリアム・メレル・ヴォーリズ、滋賀県立商業学校英語教師となる。
同校生徒を対象にバイブルクラス、YMCA を組織。自宅に吉田悦蔵ら同居。 |
| 1907 (明治 40) 年 | 八幡 YMCA 会館 (現 アンドリュース記念館) 建設。悦蔵と共同生活。
ヴォーリズ、宗教上の反発のため講師契約を解除され離職。東京、京都などの
ミッションスクールの誘いを断り、八幡に留まり、建築設計・監理により収入
を得、伝道活動を続ける。 |
| 1909 (明治 42) 年 | 大津・米原に鉄道 YMCA 設立。 |
| 1917 (大正 6) 年 | 八幡町池田町 (現 近江八幡市池田町) の近江ミッション [1910 近江基督教
伝道団、1918 近江基督教慈善教化財団、1940 財団法人近江兄弟社] の所有地を
開放してプレイグラウンド (遊具を備えた遊び場) とする。 |
| 1919 (大正 8) 年 | ヴォーリズ、一柳満喜子と結婚。 |
| 1920 (大正 9) 年 | プレイグラウンドに「清友園」と名付け、ヴォーリズ満喜子が園長となる。 |
| 1922 (大正 11) 年 | 清友園幼稚園開設。 [1951 近江兄弟社幼稚園と改称] |
| 1923 (大正 12) 年 | 米原町 (現 米原市) に米原シオン幼稚園開設。園長・吉田清野 [1942 閉鎖]
吉田悦蔵著『近江の兄弟ヴォーリズ等』出版。跋文、賀川豊彦。 |
| 1930 (昭和 5) 年 | ヴォーリズ、Colorado College LL.D (名誉法学博士号) 授与される。 |
| 1931 (昭和 6) 年 | メンソレータム社創業者・ハイド一家の寄付により、市井町 (現 学園本部) に幼
稚園舎 (現 ハイド記念館および体育館 (現 教育会館) 建設。幼稚園を池田町から
移転。慈恩寺町に建設した教員宿舍 (現 ヴォーリズ記念館) にヴォーリズ夫妻転居。 |
| 1933 (昭和 8) 年 | 吉田悦蔵ら近江勤労女学校設立 [1935 近江兄弟社女学校に改称。1947 一部生徒
近江兄弟社中学校に編入、1948 一部生徒、近江兄弟社高等学校に編入]
メンソレータム工場内に女子従業員教育機関の近江向上学園設立 (学園長・佐藤安
太郎、西村関一、吉田政次郎)。戦時中、近江兄弟社女子青年学校 (校長・村田幸
一郎) [1948 近江兄弟社高等学校定時制部に移行] |
| 1936 (昭和 11) 年 | 公衆浴場 2 階において、幼児のために保健・衛生を主とした生活訓練を開始、
これを「こどもの家」と称した。 [1937 慈恩寺町に活動場所を移し、滋賀県の認可を
受けた] このころまでに、堅田・今津・水口幼稚園、八日市託児所、近江家政塾、
八幡英語学校、江西義塾、農村青年学校、清友園教育研究所等多様な教育事業を展開。 |
| 1940 (昭和 15) 年 | 吉田悦蔵、近江兄弟社図書館開設 [1975 近江八幡市に移管] |

- 1941 (昭和 16) 年 ヴォーリズ、日本に帰化。妻・一柳満喜子の戸籍に入り「一柳来米留 (ひとつやなぎめれる)」と名乗る。
太平洋戦争始まる [1945 終戦]
- 1942 (昭和 17) 年 近江兄弟社女学校長・吉田悦蔵召天 (以後、校長・高橋虔、檜山嘉蔵) 戦時体制により近江向上学園を「近江兄弟社女子青年学校」とする。清友園幼稚園、こどもの家、近江兄弟社女学校などをまとめて「近江兄弟社学園」と称し、檜山嘉蔵が学園長となる。戦時中、敵性外国人と見なされた一柳一家は近江兄弟社の要請に従い軽井沢にて暮らす。一柳来米留 (ヴォーリズ) は、軽井沢に疎開していた外国人宣教師らと共に教会・学校建築計画に余念なく、東京大学にも出講。満喜子は疎開児のための軽井沢幼稚園・啓明学園などの運営を委託される。
- 1945 (昭和 20) 年 終戦により一柳一家は近江八幡に戻り、満喜子は学園に復帰、学園長となる。
- 1947 (昭和 21) 年 近江兄弟社小学校、中学校設立 (設置者・財団法人近江兄弟社、校長・一柳満喜子)
- 1948 (昭和 22) 年 近江兄弟社高等学校、同 定時制部を設立 (設置者・財団法人近江兄弟社、校長・一柳満喜子)
- 1950 (昭和 25) 年 中高校舎建設 [1967 焼失。1968 新校舎建設。2007 改築 (現 学園本館)]
- 1951 (昭和 26) 年 学校法人近江兄弟社学園 (現 ヴォーリズ学園) 設立。初代理事長・一柳来米留 (ヴォーリズ) 、学園長・一柳満喜子。
幼・小・中・高校を財団法人近江兄弟社より学校法人近江兄弟社学園に移管。「清友園幼稚園」を「近江兄弟社幼稚園」に名称変更。
- 1954 (昭和 29) 年 一柳来米留 (ヴォーリズ) 、藍綬褒章受章 [1957 くも膜下出血で倒れ療養生活に入る。1958 近江八幡名誉市民に推挙される。1961 黄綬褒章受章]
- 1963 (昭和 38) 年 一柳満喜子、教育功労者として藍綬褒章受章。
一柳満喜子学園長・理事長代行「小学校、中学校を廃止して高等学校の充実を計る」と発表したのが、反対運動で中止 [以後、小学校廃校案二度。[2018 募集停止]]
希望館建設 [2010 改築 (現 希望館)]
- 1964 (昭和 39) 年 一柳来米留 (ヴォーリズ) 召天。一柳満喜子、理事長に就任 (学園長兼務) 。
- 1969 (昭和 44) 年 一柳満喜子理事長・学園長召天 (以後、理事長・尾崎政明、西川仲二、西村関一、山本肇、草間修二、西村与左衛門、山田眞、仁村昭司、道城献一、岩原侑、池田健夫。学園長・浦谷道三、尾崎政明、草間修二、大橋寛政、仁村昭司、道城献一、奥村直彦、大門義和、中島修、佐野安仁、道城献一、池田健夫)
- 1972 (昭和 47) 年 学園創立 50 周年を記念して体育館建設 (現 ヴォーリズ記念体育館サブアリーナ) 。
高校、戦後初の海外研修旅行 (韓国) 実施 [1990 分散型に変更]
- 1973 (昭和 48) 年 中高運営組織を分離
- 1974 (昭和 49) 年 株式会社近江兄弟社会社整理 [1975 財団補助金廃止、私学助成制度開始]
- 1978 (昭和 53) 年 高校定時制部廃止。
- 1979 (昭和 54) 年 高校新校舎建設 (現 西館) 、4 学級制に対応。
- 1980 (昭和 55) 年 中学校 2 学級制に [1984 3 学級制、1992 4 学級制]
- 1981 (昭和 56) 年 近江八幡市多賀町に校地取得 [1998 〜数次にわたり同校地拡張]
- 1983 (昭和 58) 年 中高一貫コース開始 [1984 特進コース開設。1994 高校コース制解消]
- 1988 (昭和 63) 年 三輪英樹オリンピック出場 (以後、伊藤みき、乾友紀子出場)
- 1991 (平成 3) 年 学園創立 70 周年記念事業開始。新図書館棟建設 (現 捜信館)
- 1993 (平成 5) 年 高校野球部 甲子園出場。
- 1995 (平成 7) 年 北之庄校地 (近江八幡市北之庄町) にヴォーリズ記念グラウンド造成。
- 1996 (平成 8) 年 小学校シャロン館建設 (現 高校エクステンションセンター)
- 1997 (平成 9) 年 多賀校地 (近江八幡市多賀町) に文化体育交流センター建設。
- 1998 (平成 10) 年 小学校 2 学級制 [2002 中断]

- 2000（平成 12）年 学園創立 80 周年事業開始。ハイド記念館・教育会館を登録有形文化財に登録。
- 2001（平成 13）年 高校新校舎建設（現 東館）、6 学級制に対応。高校単位制課程を設置。
- 2002（平成 14）年 近江兄弟社総合サービス有限会社設立（スクールバス、営繕、警備）
長期計画「近江兄弟社学園 21 世紀グランドデザイン」策定〔2017 終了〕
- 2003（平成 15）年 多賀校地に新幼稚園舎（一柳満喜子記念館）建設。
近江兄弟社幼稚園を市井校地から移転。
近江兄弟社こどもセンター設立（保育事業開始のため）
- 2004（平成 16）年 エンジェル保育園（認可外保育所）開園。
- 2005（平成 17）年 高校北館建設、単位制 2 学級制に対応。
- 2007（平成 19）年 星のひかり保育園開園。学園本館建設、5 階にヴォーリス平和礼拝堂設置。
宗教センター開設。「いのちと平和の集い」開催（以後、毎年開催）
- 2008（平成 20）年 近江八幡市 金田東保育園の民営化を受託。
- 2009（平成 21）年 「ヴォーリス展 in 近江八幡」市民実行委員会により開催。学園は全面協力。
- 2010（平成 22）年 安土町（現 近江八幡市安土町）安土保育園民営化を受託。安土こどもの家を
指定管理者として運営開始。新希望館建設。
高校国際コミュニケーション科（ICC）発足〔2011 認可〕
多賀校地に中高武道場建設（柔・剣道場）〔2016 弓道場建設〕
- 2011（平成 23）年 守山市に もりの風こども園開園。学園創立 100 周年記念事業開始。
近江八幡市浅小井町に校地取得。同校地に中高体育施設（グラウンド、体育館、合宿所等）、
小学校舎整備（移転準備）
- 2013（平成 25）年 近江兄弟社幼稚園と星のひかり保育園を統合して、認定こども園「近江兄弟社ひかり園」とする。
- 2014（平成 26）年 小学校を浅小井校地に移転。ヴォーリス没後 50 年記念行事「ヴォーリスメモリアル in 近江八幡」市民実行委員会により開催。学園は全面協力。
近江兄弟社グループ主催「ヴォーリス建築を巡る韓国旅行」を学園が企画・実行。
- 2015（平成 27）年 法人名を「学校法人ヴォーリス学園」に変更（以後、理事長・池田健夫、藤澤俊樹。
学園長・道城献一、池田健夫、小野春男）
第 10 回「いのちと平和の集い」（以後、隔年開催）
- 2016（平成 28）年 近江兄弟社小学校児童募集停止を発表（12 月）〔2018 募集停止〕弓道場竣工。
- 2017（平成 29）年 東近江市に そらの鳥こども園開園。新体育館竣工（ヴォーリス記念体育館メインアリーナ）。
旧体育館を改修しサブアリーナとする。
- 2018（平成 30）年 「近江兄弟社こどもセンター」を「ヴォーリス・エデュケアセンター」に名称変更。
ヴォーリス・コーチングアカデミー開設。
- 2019（令和 1）年 「ヴォーリスみらい構想」準備会立ち上げ。
高校国際コミュニケーション科定員増（2 学級制）。
守山市に ふるたか虹のはし保育園開園。一柳満喜子没 50 周年記念事業実施（8～11 月）
学校法人関西学院と近江兄弟社グループが連携協定締結。
- 2020（令和 2）年 『ヴォーリスらの教育事業 100 年小史』刊行。COVID-19 による休校（3～5 月）。
- 2021（令和 3）年 「宗教センター」を「ヴォーリス・キリスト教平和センター」に名称変更。
浅小井校地グラウンドを人工芝化（地域スポーツの拠点）
- 2022（令和 4）年 学園創立 100 周年。「ヴォーリスみらい構想」発表。
記念行事
・ヴォーリス学園創立 100 周年音楽会 2 月 20 日（日）収録。5 月より配信。
・ヴォーリス建築写真展「VORIES TIME」開催
3 月 25 日（金）～6 月 30 日（木）ハイド記念館
・「百人百景」開催 6 月 25 日（土）撮影会 近江八幡市内一帯

10月22日(土) 交流会 ヴォーリス平和礼拝堂

10月7日(金)～11月8日(火) 展覧会 教育会館

・ヴォーリス学園創立100周年記念式典

11月3日(木・祝) ヴォーリス平和礼拝堂

・高等学校 平和礼拝にて、姉妹校生徒と本校生徒のスピーチ

7月12日(火)～15日(金) ヴォーリス平和礼拝堂

乾友紀子 水泳世界選手権ASソロで二冠達成。

2023(令和5)年 小学校 閉校

安土保育園 新園舎建設に伴い、「安土のはな保育園」に園名変更

2025(令和7)年 金田東保育園を認定こども園「ほしの恵みこども園」に変更。新園舎建設。

「ヴォーリス来日120年記念事業」を市民協議会とともに開催

3. 設置する学校等の定員および生徒数の状況(2025年5月1日現在)

校 園	定員数	生徒・児童・園児数
高等学校	1,190名	1,071名
中学校	456名	350名
こども園	685名	664名
保育園	374名	383名
合 計	2,705名	2,468名

4. 役員および教職員の概要等

① 役員一覧(2025年5月1日現在)

理 事 長 藤澤俊樹

常任理事 小野春男 松田 保 安川千穂 春日井敏之 中島 薫

田邊理恵子 浅居正信 石田正博 山崎 直

理 事 蔭山孝夫 筈井昌彦 尾賀康裕 辻 昌宏 上野昌志 奥 達夫

監 事 小西 勉 川森勇次

評議員 36名

② 教職員数(2025年5月1日現在)

学園本部	理事長、学園長、副学園長2、事務長、参与、事務次長2、専任職員11、兼任職員10、教育顧問1					
	校 長	副 校 長	専任教員	兼任教員	専任職員	兼任職員
高等学校	1	3	69	29	2	8
中学校	1	教頭含2	22	4	0	12
認定こども園(4)	園長4	副園長4	98	0	7	84
保育園(2)	園長2	副園長2	0	0	59	36

Ⅱ. 各校園事業報告

1. 高等学校

2025 年は、ヴォーリズ来日 120 周年という節目の年を迎え、学園への関心の高まりも見られた。同時に「私学授業料無償化」の追い風と、これまでの取組を土台にしながら、本学園・高等学校独自の取組等を展開した結果、学園創造において画期となる一年となった。その結果、2026 年度の新入生は 425 名を迎え入れることができた。

(1) 学園訓と教育理念の共有と教育活動の展開

建学の精神が込められた学園訓「地の塩 世の光」に基づく人間教育の 3 つの柱について、①「いのちを大切に教育」、②「平和の担い手として世界とつながる教育」、③「豊かに生きる力を育む教育」として再確認し、入試パンフレット、HP、SNS など丁寧で教育理念を発信していった。同時に、教育活動の具体的な展開に際しては、高等学校の教育目標である「互いの人権を尊重し、幸福な未来を実現するために、自ら学び考え協働できる人」を絶えず意識して、コースごとに 3 つのスクールポリシーの明確化とわかりやすい発信にも取り組んできた。

- ① グラデュエーションポリシー（卒業までに育成を目指す資質能力に関する方針）
- ② カリキュラムポリシー（コース、教科、分掌等の教育課程編成と実施に関する方針）
- ③ アドミッションポリシー（入学者受け入れに関する方針）

本校における人間教育の 3 つの柱を縦糸に、3 つのスクールポリシーは横糸として位置付けることができる。この縦糸と横糸によって、教育活動は織りなされていくと捉えている。

(2) 人間教育の 3 つの柱に関する教育活動の展開

① いのちを大切に教育（宗教委員会、人権教育委員会、生徒部、生徒会、学年団等）

「いのちの花」に記された 9 個の課題は、生徒だけではなく、私たち教職員が同僚性を高めていくためにも必要な共通の課題である。それは、「聴く力、伝える力、考える力、助けを求める力、立ち直る力、挑戦する力、相手を大切に力、自分を大切に力、つながる力」から構成されている。これらの非認知能力（社会性と情動）を具体的な日々の他者との関わりや自身のあり方に生かしていくために、生徒部が軸となって、学級リーダーの取組としてピア・サポート活動を展開していった。

② 平和の担い手として世界とつながる教育（ICC、国際センター、教育改革委員会、学年団等）

「探究科」の学びを通して、現代の地域・社会や世界が抱える課題、戦争と平和の課題、温暖化、震災、環境、食糧、人口、資源、エネルギー、ジェンダー、貧困などをめぐる課題について、世界に視野を広げて課題解決を図るための学びを展開していった。具体的には、ICC と国際センターの連携によって取り組まれてきた海外への留学経験、海外から本校への留学生や訪問生の受け入れと交流の機会を広げていった。特に ASC（アーツサイエンスコース）における探究型学びの成果報告会では、年々質的向上がみられる。

③ 豊かに生きる力を育む教育（教科部会、教育改革委員会、宗教委員会、進路部、生徒部、生徒会、学年団等）

一つには、認知能力として、授業を通して基礎的な学力を高め、発展的な応用力を身に付けていくこと。授業の改善、工夫を教員、教科部会の重点課題として取り組んできた。生徒が学ぶこと、できること、わかることの楽しさや深さを実感し、進路選択先での学びの発展につながっていく資質能力を身に付けていくことを重視してきた。2025 年からは、八幡学、ヴォーリズアワー等の取組を踏まえ、課題探究型の学びの場として「探究科」を開設してきた。基礎的な学力の定着を図るために、定期試験 1 週間前のまとめの授業、放課後の質問教室などを行ってきた。

二つには、非認知能力として、いのちの教育や国際理解教育、学校行事、生徒会活動等を通して、豊

かな社会性や情動を身に付けていくこと。この点については、「①いのちを大切にする教育」で述べた。

三つには、独立した個としての主体性と社会的なつながりとしての協働性を身に付けていくこと。具体的には、授業での学習集団づくり、学級集団づくり、学年集団づくりを重要な取組としてきた。こうした視点から、授業公開後の授業研究会に受講した生徒の代表複数の参加を求め、教職員と一緒に授業の検討会を行ってきた。LHR 等の中で、生き方や進路選択に関する「キャリア教育」、平和や人権について考える「人権教育」・「記念礼拝」、性と生について考える「性教育」、お互いに助け合って生きるための「ピア・サポート活動」等を展開してきた。

(3) 教育改革と「放課後ゼミ（100 ワク）」「放課後学習（メンター学習室）」の展開

2025 年度より 45 分授業が実施されることに伴い生み出された時間を活用し、全教職員による「放課後ゼミ（100 ワク）」を開設してきた。ここでは、各教職員の関心や持ち味を生かして、100 余りの講座が開設され、生徒と一緒にワクワクをカタチにしていく取組を展開してきた。例えば、英文法、古典文法、数学など受験に向けたゼミ、英検など資格を目指すゼミ、DX ハイスクールの指定で購入した 3D プリンターを使った創作ゼミ、めっちゃうまいカレーパン作りのゼミ、地域で小学生の学童寺子屋塾のチューターになるゼミ等である。生徒の興味関心や目的・課題に応じて、自分で選択して参加できる多様な学びと交流の場を提供することができた。

また、学外の教育機関「トモノカイ」との連携により、9 月より週 5 日間 3 時間の「放課後学習（メンター学習室）」の取組を展開してきた。基本的に 3 名のトレーニングを受けた大学生が、学習支援のメンターとして参画してきた。こうした放課後の取組にすべての生徒が参加できる機会を保障するために、週 1 回火曜日を部活動休止日として設定した。このような放課後の取組と日々の授業の改善・工夫、家庭学習の時間確保を通して、生徒の基礎的学力、発展的応用力の向上を図り、社会的なつながりのなかで、豊かに生きていくための資質能力を育んでいきたいと取組を進めてきた。2027 年度前期に完成予定の新恵愛館（仮称）を「ラーニングコモンズ」（学びと交流の拠点）として活用し、取組の展開を促進していく。

(4) 本校の強みを生かした進路指導と課題への取組

本校の進路選択は、指定校推薦、自己推薦・総合型選抜などの特別選抜入試で 9 割程の進路先が決定し、一般選抜入試は 1 割程に留まっている。ここには、二つの課題があることを認識して取り組んできた。一つには、特別選抜入試で進路が決定していく強みを生かして、特に 3 年生後半の授業や本校教職員による「放課後ゼミ（100 ワク）」等において、進路先での学びにつながる課題探究型の学びを形にしていく取組の工夫である。二つには、一般選抜入試に臨む生徒のために、特に 2 年～3 年の授業や「放課後ゼミ」等において、受験を支援する取組工夫である。さらに、放課後の学習の場として、9 月からは教育機関「トモノカイ」と連携して大学生スタッフによる「放課後学習（メンター学習室）」を開設してきた。

この間、校長の諮問機関として「ASC（アーツサイエンスコース）改革検討ワーキングチーム」と「学年制と通信制の併修制度検討ワーキングチーム」を立ち上げ、具体化に向けた検討を進めてきた。ここでは、一つには、難関大学、一般入試に向けた対策の強化を図っていくこと。二つには、学年制で長期不登校になった場合に通信制との連携による学習機会の選択肢を広げていくことを検討し、2026 年度の取組につなげていく。

(5) 部活動の意義と課題への取組

文化・スポーツ部活動の発展には、三つの意味が含まれています。一つには、文化・スポーツ活動の技術・技能を磨き、個人、チームとして専門性をより高めていくこと。二つには、文化・スポーツ活動の裾野を広げ、生涯を通して文化・スポーツに親しんでいく人々を増やしていくこと。三つには、文化

・スポーツ活動を通して、人として成長し人間形成をはかっていくことである。部活動ガイドラインにおいても、勝利至上主義ではなく、体罰やハラスメントを否定して、人間形成の場としての文武不岐の部活動のあり方が定められている。また、生徒募集においても部活動が大切な役割を果たしている面がある。今回の教育改革のなかで、遠隔地での活動、体育館での活動に係る一部の強化部を除き、平日は3時間以内とし勤務時間内で行うことを確認してきた。

一方、強化部が増加する中で、一般の生徒が参画しにくくなっている面があることも指摘されてきた。また、顧問の負担軽減の面からも強化部の見直しや生徒募集における効果検証をしてきた。奨学金ではなく、部活動の魅力で生徒が集まってくれる部活動のあり方について、引き続き検討をしていく。さらに、生徒が主体性と協働性を身に付けていけるような部活動の指導のあり方の交流・研修を次年度には予定している。この間、強化部の顧問会議を何度か開催し、検討の場を重ねてきたが、取組を継続・発展させていく。なお、今後の部活動のあり方について、学園としても引き続き関係機関とも議論を重ねて方向性を定めていく。

(6) 募集活動の重要性と今後の展開

2025 年度の入試結果の厳しさを危機意識をもって、全教職員で受けとめながら、在校生の満足度を高めるための上記のような取り組みを積極的に展開してきた。学園訓や教育理念を土台にしながら、具体的な取組をどのように展開していくのかがなければ、募集活動において中学生や保護者、中学校の教職員、塾関係者などに対して、本校が何を大事にして教育活動を展開しているのか、アピールしていくことができないからである。

そのうえで、今まで大切にしてきた取り組みを含めて、「ワクワクをカタチにできる学校生活」「3年間の学びと進路選択」「多彩で楽しい行事活動」「人間形成の場としての部活動」といったトータルな学校生活の中で、学園訓を体現するような多様性に満ち、バランスのとれた生徒が多く育っていることをオープンキャンパス、HP、SNS などで発信してきた。入試パンフレットの全面的な改定も行ってきた。また、近江八幡、野洲、守山といった近隣地域からの受験生、入学生徒が減少している状況を受けとめて、中学校訪問や「出前授業」などを含めて足を運ぶことも重視してきた。年度当初には、全教職員に対して、自分ができる募集活動について「自己評価シート」に記載を求め、やれることは何でもやろうと取組を進めた。

さらに学園の取組として、高等学校の要望を受けて、常任理事会として、学力優秀層への奨学金の増額について判断していただいたことも、募集活動には大きな影響を及ぼし、優秀な生徒層の入学につながっていった。この点に関する効果検証をきちんと行い、次年度につなげていく。

高等学校長 春日井 敏之

2. 中学校

2025 年はヴォーリズ来日 120 周年記念の年でした。この節目の年に市民の方々を中心に様々なイベントが企画され、ヴォーリズの偉業を振り返る機会が持たれました。学園においても創立者の理念を改めて確認する意義のある年となりました。少子化、経済の停滞等、本校を取り巻く状況は大変厳しい状況です。しかし、本校教育理念を大切にし、さらなる教育の充実を図るとともに、本校の魅力の発信に積極的に取り組んだ年度でした。

(1) 教育改革

2025 年度は、働き方改革、教育改革の観点から中学校・高等学校で授業時間を 45 分とする時程変更を行いました。この改革は、主体的な学びの推進、放課後時間の活用、家庭学習の習慣化等、学習や学

校生活における生徒の「最善の利益の実現」を図っていく教育改革です。

具体的には、1 時間 1 時間の授業のめあてを明確にした授業づくり、基礎学力の定着と同時に、探究型の学びを軸とした授業づくりに取り組みました。各教科での取り組みを情報共有できるよう研究授業を実施し、研修を行いました。

放課後等の活用による学力向上や学びへの興味関心喚起にも取り組みました。特にクラブ活動の休止日としている木曜日の放課後を活用して、各教科や学年での講座や学習会「兄中学びのプロジェクト」を行いました。

次年度の課題の一つとして家庭学習の習慣化があげられます。授業と連動した家庭学習や、さらに自主的な家庭学習など、家庭での学習習慣を作っていきたいと考えています。また中学校と高校で昼休みの時間帯をずらすことにより、テイクアウトだけでなく食堂利用がしやすくなり、学校生活での楽しみが少し増えたようです。

(2) 教育の柱

本校教育の柱とする「英語学習」「探究学習」「ICT 教育」のさらなる深化を図り取組を進めました。特に「英語学習」「探究学習」について、この間 3 年間の取組をもとに、検討し、さらなる充実を図りました。

「英語教育」では、英語力を測る学力検査 G-TEC の結果から各技能の向上が見られ、また英語技能検定においても成果がみられ、英語力伸長の体制が整いつつあると考えます。さらに次年度に向けて、これまで活用してきた学習支援アプリをより学校での英語学習に即した、スピーチ学習に適したアプリに変更することとしました。

「探究学習」では各学年に設定したテーマに従って、地域の自然・文化・経済・環境等について探究活動を進めました。これまでの取り組みを土台として 2・3 年生では、探究学習のテーマを「自分探求」に変更し、より自分自身の経験や興味関心に基づいた「問い」をたてて探究学習に取り組む準備を進めました。

(3) 学校生活

「いのちを大切にせる教育」を教育の中心に据え、安心安全を基盤として、それぞれの良さや個性を表現できるよう支援を行いました。その実践の検証として「学校生活アンケート」「いごこち度アンケート」等を実施し、生徒たち一人ひとりの状況を把握し、学年・クラスづくり、個々の生徒の見守りや支援に活かしました。

(4) 連携・学校運営

中高管理職会議での議論や情報交換をより密にし、それぞれの学校運営に活かしました。2025 年度は特に 45 分授業の実施を柱とする「中高教育改革」の取組やクラブ活動のあり方、施設整備等について議論し、進めました。

(5) 募集活動

全教職員が募集活動に積極的に携わり、在校生、卒業生の姿が見え、本校の教育・魅力が伝わるよう情報発信に努めました。具体的には、HP 約 200、インスタグラム約 120 の記事をあげ、またオープンキャンパスの参加者に LINE 登録を呼びかけました。

オープンキャンパスでは、在校生や卒業生、教師の姿が見えるよう工夫して企画しました。また今年度も 4・5 年生を対象にプレオープンキャンパスを 3 月に実施し、早期に募集活動を始めました。また「エデュケアセンター奨学金」の新設、「ファミリー奨学金」の増額と奨学金制度を充実しました。

2025 年度は、113 名の新入生を迎えることができましたが、定員充足率は 80%を下回る厳しい状況でした。しかしこの間のオープンキャンパスの参加者の状況を見ると、早い時期から本校への入学を希

望されている参加者も多く、本校教育に魅力を感じて下さる一定数の方がおられることが分かります。このことを励みとしさらに受験層の開拓に努めたいと考えます。今年度募集総括を活かし、教職員一丸となって次年度に向かいたいと思います。

中学校長 中島 薫

3. ヴォーリス・エデュケアセンター (Vories EduCare Center)

2025 年は学園創立者の一人である W・M・ヴォーリス（日本人名：一柳米来留）の来日 120 年の節目となりました。ヴォーリス・エデュケアセンターでは、『ヴォーリス先生と出会う』というテーマで職員研修を行い、ヴォーリスが協力者と共に取り組んだ様々な活動に触れ（出会い）ました。ヴォーリスの志を学ぶことにより、各園で培ってきた教育・保育実践を振り返り、保育の質の向上に繋げることができました。また、2025 年度 1 月に着工したほしの恵みこども園（旧金田東保育園）の園舎建築、園庭整備事業が 2026 年 2 月にすべて完了し新たな環境のもと、金田学区唯一の認定こども園としての歩みが始まりました。各園の事業について以下に記します。

近江兄弟社ひかり園

「ひかり園遊び改革プロジェクト」として、種々の運動遊具を整備し、運動遊びを日常の保育に取り入れ、子どもたちの「遊び」の充実を図りました。また、乳児棟正門をオートロック化し、乳児棟・幼児棟共に LED 化をしました。

もりの風こども園

施設全体の LED 化が完了しました。主幹保育教諭、副主幹教諭を中心に遊びの実技研修を行いました。職員同士があそびの中で、わくわくする体験を共有し、実践に生かすことで保育の幅を広げることができました。

そらの鳥こども園

2025 年度準備を進めた「しが自然保育認定制度」の認定 2026 年 4 月 1 日付で受けることができました。

ほしの恵みこども園

新園舎が完成したことにより、10 月末日で分園を廃園し、本園と分園を一本化して新園舎で新たな生活をスタートさせました。2 月末には 2 期工事も完了し、装い新たな園庭で活動しました。工事期間中は安全に留意しながら間近で重機を見て、普段できない経験を重ねました。近隣の方々にも温かく見守っていただいています。

安土ののはな保育園

子どもたち一人ひとりの安心・安全な居場所づくりを心掛け、発達により適した環境で保育を行いました。また、職員の労働環境の課題にも視点をあて面談を持ちながら職員一人ひとりの資質向上、自己肯定感の向上を図りました。

ふるたか虹のはし保育園

空調設備の室外機移設について計画を進めました。0 歳児～5 歳児までが集う誕生日会で、讃美歌を歌ったり、聖書のおはなしを子ども達に伝える等、少しずつキリスト教保育の取り組みを行いました。

ヴォーリス・エデュケアセンター長 安川 千穂

Ⅲ. 財務報告（2025 年度財務状況概要）

(1) 資金収支計算書

学校法人の当該会計年度の諸活動に対する、すべての収入・支出の内容を明らかにするものです。

①資金収入

(単位千円)

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
学生生徒納付金収入	1,191,402	1,162,588	1,153,684	1,090,858	1,057,377
手数料収入	32,975	30,947	29,410	25,391	28,499
寄付金収入	21,130	13,815	12,001	20,500	23,739
補助金収入	1,691,171	2,039,516	1,802,144	1,968,605	2,232,594
資産売却収入	0	0	0	0	0
付随事業・収益事業収入	138,409	141,577	87,795	85,202	60,606
受取利息・配当金収入	256	341	568	1,105	4,601
雑収入	131,538	90,463	142,571	83,354	92,467
借入金等収入	60,000	170,000	0	0	25,000
前受金収入	100,140	97,450	91,940	82,540	99,070
その他の収入	154,215	236,031	459,350	358,681	592,483
資金収入調整勘定	△333,184	△557,854	△360,262	△402,144	△649,736
前年度繰越支払資金	1,040,720	1,160,051	1,346,565	1,369,822	1,524,819
収入の部合計	4,228,774	4,584,928	4,765,771	4,683,918	5,091,523

②資金支出

(単位千円)

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
人件費支出	2,103,756	2,099,634	2,085,580	2,065,773	2,047,297
教育研究経費支出	-	-	-	-	578,856
管理経費支出（～2024 経費支出）	681,644	688,071	722,227	719,151	217,777
借入金等利息支出	10,054	10,188	9,021	7,886	7,350
借入金等返済支出	102,496	110,476	105,953	105,910	97,987
施設関係支出	89,344	269,732	261,489	153,550	510,557
設備関係支出	17,499	19,981	89,511	29,694	85,405
資産運用支出	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000
その他の支出	88,815	91,772	182,220	110,098	95,334
資金支出調整勘定	△74,888	△101,493	△110,055	△82,966	△82,922
翌年度繰越支払資金	1,160,051	1,346,565	1,369,822	1,524,819	1,483,879
支出の部合計	4,228,774	4,584,928	4,765,771	4,683,918	5,091,523

(2) 事業活動収支計算書

会計年度における、学校法人の活動内容ごとに収支状況を明らかにするものです。

(単位千円)

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
教育活動収入	3,204,482	3,187,139	3,222,789	3,217,228	3,188,372
教育活動支出	3,070,226	3,060,140	3,088,286	3,068,733	3,121,993
教育活動収支差額	134,255	126,998	134,502	148,494	66,379
教育活動外収入	256	341	568	1,105	4,601
教育活動外支出	10,054	10,188	9,021	7,886	7,350
教育活動外収支差額	△9,797	△9,847	△8,452	△6,781	△2,748
経常収支差額	124,457	117,151	126,050	141,713	63,630
特別収支差額	△605	245,244	939	51,520	148,823
基本金組入前当年度収支差額	123,852	362,395	126,989	193,233	212,454
基本金組入額	△174,418	△338,073	△289,895	△284,546	△303,970
当年度収支差額	△50,565	24,322	△162,905	△91,312	△91,516

(3) 貸借対照表

年度末における資産、負債、純資産（基本金、繰越収支差額）の状態すなわち財政状態を表示するものです。

(単位千円)

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
資産の部					
固定資産	5,625,289	5,647,000	5,763,662	5,707,933	5,946,626
有形固定資産	5,315,187	5,288,407	5,356,577	5,252,357	5,534,914
特定資産	300,000	350,000	400,000	450,000	406,163
その他の固定資産	10,101	8,593	7,084	5,576	5,548
流動資産	1,431,163	1,837,429	1,751,254	2,059,230	2,091,946
資産の部合計	7,056,452	7,484,429	7,514,917	7,767,164	8,038,573
負債の部					
固定負債	1,137,929	1,207,298	1,114,214	1,191,328	1,120,371
流動負債	363,450	359,662	356,245	338,144	468,056
負債の部合計	1,501,379	1,566,961	1,470,459	1,529,472	1,588,427
純資産の部					
基本金	8,931,970	9,270,043	9,559,939	9,844,485	10,136,635
繰越収支差額	△3,376,897	△3,352,575	△3,515,480	△3,606,793	△3,686,489
純資産の部合計	5,555,072	5,917,468	6,044,458	6,237,691	6,450,146
負債及び純資産の部合計	7,056,452	7,484,429	7,514,917	7,767,164	8,038,573

IV. その他

附属明細書 記載事項なし